

## 第40回子どもの学びを創る会 参加者の感想

校内の歴史資料館に目を付けられる石村先生のセンスはすごいと思いました。総合で何を学習材にするかを考えるかが、とても大切なポイントだと思います。

「課題」という言葉が今回の一つのキーワードでした。

総合をハードル走に例えると、自分は、「課題」は「問題」を解決するために乗り越えなければならないハードルだと思っています。

「問題」がゴールのイメージです。

問題意識は、こんな資料館を作りたい。でもできない？わからない？

こういう願いや問いと密接に通じたものだと思います。

このとらえが、石村先生と自分とは、少しちがうのかな・・・？と思いました。

みなさんはどうとらえられているのでしょうか？

いずれにせよ、問題意識や課題意識をもたせる学習活動が必要だと思います。

出合った瞬間意識がもてることもまれにあるかもしれませんが、やはりある程度学習材にかかわる中で、出てくるものだと思います。

石村先生の事例発表は、大変参考になりました。自分は子どもの意欲を高め、持続させることが十分にできていませんでした。石村先生はきめ細やかな支援や評価、子どもが考えたり活動したりしたくなるために伏線をはっておくことなどをされており、自分でも実践してみたいなと思いました。

また、先生方の話を聞いて、「課題」ということについて改めて考えさせられました。子どもたちが学習していく中で「課題」が生まれてくること、当たり前のことなのですが、自分の中で「課題」という言葉がはっきりしていませんでした。今日の話聞いて、少しは整理できたような気がします。

正直言うと、自分は、どのように総合的な学習を進めてよいかいまだに分かっていないところがあります。学校では、各学年で学習する内容(領域)はだいたい決まっているのですが、それが学校目標からどのように下りてきているのかは、あまり考えたことがありませんでした。昨年度の計画を見て自分も行うという感じになってしまっているところがあります。

今回は、そのことについて考えるよい機会になったと思います。またいろいろな先生に教えていただけたらありがたいです。

石村先生の総合的な学習の時間にかかる思いに、まずもって感動、そして感謝です。  
この最近の学校現場の総合は、国語や算数の学力向上に関する取組や特別支援教育への考え方などの研修が優先され、総合的な学習の時間は隅に追いやられて小さくなっているようなイメージがあるのですが、いかがでしょうか？  
基本的な考え方が継承され、足場となっている学校は微動だにしないのでしょうか、これまでが怪しいところは、さらに怪しい総合的な学習の時間になるのをふせがないといけないのが苦しいですね。

今日の石村先生のご実践は、子どもの姿と活動保証の点からすればいい事例だったと思います。きっとこれまでの総合的な学習の時間のノウハウが凝縮されたものだと確信しています。  
単元レベルでの話しでは、納得することが多くあったのですが、やはり、学校としての総合的な学習の時間を創ることを考える視点をもっていないと”点”でしか考えられなくなります。  
教科や特別活動などでも同じことが言えますが、学校の教育目標を具現化する領域として、総合で身に付けさせたい力や学校としての年間計画という”線”を重視しないといけんと思いました。